

越谷市郷土研究会資料 昭和五十五年十二月二十五日

第九十九回

越谷市郷土研究会史跡めぐり

越谷市郷土研究会

日置宗一

西新井大師と大聖寺附近の史跡

◎西新井大師。新義真言宗豊山派

天長三年八二六弘法大師の創建で五智山遍照
院総持寺といひ厄除開運の靈場として名高い
江戸時代には向東七か寺の一つで、その触水寺
であつた。この本堂は江戸後期の釋造りであつ
たが、昭和四十一年五月二十五日夜半建物裏手
から出火、約三十分で同本堂六四〇平方米の大
半を焼失した。幸い外回りが残つたので、トタ
ニ屋根を葺き、復本堂として使ひ、昭和四十三年

建立奉賛会の発足とともに、七億五千万円の予算をもち、二十四年五月一日、地鎮祭、盤盃、四十五年十月八月に上棟式が行なわれ、四十六年十一月二十一日、本堂完成にもなる。遷座祭が行なわれ、右、再建の本堂は鉄筋コンクリート造りで旧来のものより一段と大きく、建面積八五八米、間口三〇・九米、奥行二七・三米、棟の高さ三〇米、屋根は奈良の瓦六万枚を使用した、しころ葺き、鬼瓦の高さ一・五米といふ、荘大な伽藍である。

本尊は十一面觀世音像。副仏弘法大師像。ど
もに空海作位秘仏寺宝の鑄銅刻函蓋王權現像
〔長保三年四月十日の銘は国宝下あり。そのほか
谷文晁の襖絵。葛飾北斎の大師成道絵。酒井抱一
の洋犬の図。月岡芳年の消防出初の図等の文化
財がある。〕

② 山内(仁王門)

木造二階連銅板葺六段屋造りの総心のき造り
江戸後期の作。

③ 三匹堂(さざえ堂)

堂内初層に八十八祖像高村果雲作二層に十三
仏三層に二十五菩薩が安置さ水ていゝ。本尊阿
彌陀如来空所期作は本堂に秘仏として安置さ
水ていゝ。この三匝堂としては都内唯一のも
てあり保存のため現在一般公開さ水ていゝない。

(2) 塩地蔵

その各のとあり塩をらけ、古くらのいゝ伝えで
お堂の前の塩をとり、ふりかけるとイボを取つ
てく水る。功德があうたら、塩を借にして返す。相
當の信仰があり堂も扉も石の地蔵も塩をらけ

◎記念の梵鐘

この鐘は戦時中供出されたものでどうして二
とか遠くアメリカパサディナ市庁舎前に十
年間すえられいたがその鐘の銘文により当
寺の鐘とわかり昭和三十年七月当寺に返
還された話題の鐘で文政三年庚辰四月八日の
再建の銘がある。

◎中會根神社。中會根城跡(区史跡)

祭神は国常立命大雷神の二柱である。かつては
鳥井の正面に社殿があったが昭和二十九年現

在の場所に移つた水たか旧社殿の一部を
使つてあり屋根の部分に月星の紋が見ら
れる。この神社は元妙見社で昭和七年興
野の大雷神を移し中會根神社と改稱さ
れた。中會根城跡は今は堀も土壘の跡
もなつか新編武蔵風土記稿によると
城の規模は六町四斗許外構の堀及び土
居跡のみ残りど其内は今畑となつたと
ある。武工団千葉氏の居城であつた竹
の塚の真相寺に近く十葉次郎勝胤の墓
がある。自胤が居城した石渡城といふ

○大聖寺真言宗堂山派(肉原不動)

肉原山不動院ともいひ、且つては下町の人達に

篤一信仰があり、西新井大師より参詣者が後輩

し石時期もあつた。本尊は不動明王。良弁僧都作

良弁僧都とは、奈良東大寺初代の別当であり、大

津の石山寺を大佛が建立された時大仏に塗る

黄金を得ようと聖武天皇の勅願寺として良弁

が建立したものであり、肉原地方では相模国大

山王初め各所に山王信仰の場を開設してゐる

亦当盛谷市に於ては大相模の大聖寺とも深い

肉係にあると思はれ、伝説がある。

(二四七の)

肉原大聖寺縁起によると、天明二年の創建とい

わ水、良弁作の不動明王を安鎮し奉つたのが寺

の初めといふ。この縁起は弘化三年再彫刻され

た版木の「肉原不動尊縁起」といふもので、版本は

寺に寺宝として現存する。然し肉基はつては

肉原山頂像万人講世話人の發行した縁起には

当山の肉基は妙林光徳の遺妙阿弥の函尼と記

してゐる。函禪尼の板碑が当寺にある。

越谷市郷土研究会会報二号に発表があります。

① 明王院(真言宗豊山派)

万徳山明王院梅林寺。地元では赤不動と云ふ。

この地区は梅島村梅田といつた古村でこの明

王院は昔水と哀付け寺伝があり。什室。古文書

が残りてゐる。縁起によると治承二年(1132)年之系判官

源為義の三男志太先生三郎義広が当地に由居

し。当寺を祈願所とし石の初まりで三世左馬

之助義純が父祖の縁により当所に住み。後五世

常陸介久広が天満宮の分霊を迎へ境内に梅林

を作り姓を梅田と改めたと云ふ。当院には都指

是文化財の如意輪觀世音像がある。新編武蔵県
土記稿に「三石本尊地蔵ヲ安ス古ハ如意輪觀音
ヲ安セリト云身ノ丈四一セニ寸の美しハお姿
の平装座像であるが、一ふ痛んでゐる。胎内の
銘によれば永正十八年正月二の本尊ハ左メ三
向四面の堂宇を建立したとある。境内に念字二
年、^(三三九) 曆辰五年の板碑が出土してゐるが寺歴や板
碑等から梅田村が鎌倉期にはかなり村落が
発達してゐたものと推定される。